

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

中 島 真 弓

○愛知県刈谷市

高齢者支援の取組について

【所 見】

高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくためには、生活支援サービスと高齢者自身の社会参加が必要であり、多様な生活支援サービスの提供により高齢者の社会参加を一層進めることを通じて元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍することも期待され、高齢者が社会的役割をもつことにより、生きがいや介護予防にもつながると考える。刈谷市は周辺の豊田市など同様に出生率が高く、高齢化率は2020年の国勢調査では20.6%のように全国、県内と比較しても低い割合で推移しており国内では少子高齢化が比較的遅れている地域である。しかし、20年で高齢化率が7%上昇し、それに合わせて介護認定者が増加することが予想されることから早期に対応を検討されていた。

まず、見守りは必要な在宅の高齢者に対し、高齢者の食の自立を支援するとともに、安否確認を行い福祉の増進を目的とした配食サービス事業。食事の支度が困難な高齢者を対象に、定期的に自宅へ届ける「一般食」と病気療養など食事に配慮が必要な方に主治医などの指示による食事を届け定期的に栄養相談を行う「調整食」の2つの配食サービスを提供している。高齢者は買い物など移動手段の減少、食品摂取量の減少、料理が困難となるケースも多く低栄養や健康被害が懸念される中、健康長寿を伸ばす取組として生活の質の向上が図られるよう食の改善や整備が非常に重要と考える。本市では民間企業にご協力をいただき乳酸菌飲料を配達する愛のひと声事業や地区社会福祉協議会のお弁当配達事業を実施し一人暮らし方の安否確認・孤独感の解消に向け取り組んでいるが、健康的な食事を整えるための具体的な情報提供や支援は十分とはいえない現状である。利用者アンケートからも配食回数や配達人材不足、負担額等の様々な課題はあるものの刈谷市の配食サービスの取組は大いに参考になった。

また、高齢者の健康増進や生きがいづくりなどの福祉増進を目的として整備された施設「高齢者交流プラザ」があり、大浴場や運動、歌など

の各種講座や世代間交流などのイベントを運営実施している。本市にも同様の施設として3箇所「幸楽荘」があるが刈谷市が無料に対して使用料100円をいただいている。財政力の違いもあるがサービスの向上含めより多くの高齢者の方に利用し楽しんでいただける施設として、持続可能な経営形態を考える必要があると感じた。本市の高齢化率は現在33%であり、2040年問題の5年早くに40%とピークとなると言われているため、急速な高齢化に伴い早急な検討が必要である。今回学んだことを参考に高齢者支援の充実に向け取り組んでいきたい。

○愛知県豊田市

衛星画像とAIを活用した漏水対策について

【所見】

全国的に問題となっている水道管の劣化による漏水。有収率の低下にもつながるとともに道路陥没を引き起こす原因にもなるため調査しリスクの高い箇所を特定し速やかに修繕等の対策が必要となってくる。豊田市では限られた財源の中で効率よく更新を図るため衛星画像を活用したAI漏水調査について先進的に取り組んでおり、本市では有収率が71.4%と全国平均90%を大きく乖離したレベルと危機的な状況であり、今後水道事業のDX化を進める上でもとても参考になった。

豊田市は2種類の漏水調査を実施しており、令和2年にはイスラエルのベンチャー企業が宇宙空間にある水を検知するために考えた技術を応用したもので、従来の調査対象年間80km程度であったものが2,210kmの調査を可能とし、漏水箇所数も69件から259件。約3割の的中精度であったが調査期間が5年から7ヶ月へと大幅に短縮されるとともに費用も大幅な削減につながり前年を上回る漏水箇所を発見でき高い効果をあげていた。また、令和4年には国内企業2社と連携して宇宙ビックデータをもとに直径100m以内の範囲で漏水可能性区域を判定して行なっていたがこの調査でも的中率は約3割とのことだった。事業費についてはパイロット価格や国の事業を活用した実験であったため確認できなかったが、こうした調査方法が全国的に確立すれば画像診断の精度も上がり費用も安くなるのではと感じた。まだまだ調査・研究が必要と感じるが、漏水を早期発見し無駄を減らすことも課題であるため積極的にチャレンジしていきたいと考える。